



公益社団法人

# 日本水産資源保護協会

## 季報

2025年 **夏** 通巻583

第18巻 第2号

### C O N T E N T S

#### ◆事業報告 ..... 3

令和6年度漁村研究実践活動助成事業  
石川県能登とり貝生産組合 トリガイ養殖における省力化試験  
令和6年度水産資源保護啓発研究事業(巡回教室)  
島根県東部農林水産振興センター水産課  
ブリ(ハマチ)の資源同行と生態について

#### ◆事業の紹介 ..... 11

令和7年度理事会並びに定時総会  
令和7年度復興水産加工工業等販路回復促進指導事業消費地商談会開催予定  
令和7年度水産加工連携プラン支援事業 アドバイザー派遣事業について

#### ◆保護協会イニシャルトーク ..... 13

#### ◆保護協会の認証機関・お知らせ ..... 14

#### 東北復興水産加工品展示商談会2025 ..... 2

#### 水産防疫対策委託事業 養殖衛生管理技術者養成研修 ..... 15

#### JFEX FOOD Summer 加工食品EXPO ..... 16



令和7年6月17日、東京都中央区の八重洲通ハタビルのアットビジネスセンター八重洲通りにて、公益社団法人日本水産資源保護協会の第13回定時総会を開催しました。高橋正征会長(写真左)が開会の挨拶を行い、来賓として水産庁増殖推進部栽培養殖課長の柿沼忠秋様(写真右)よりご祝辞を賜りました。

# 東北復興水産加工品展示商談会2025



展示商談会開催のご案内

## 東北復興水産加工品 展示商談会 2025

～ 繋がる・繋げる展示商談会～

三陸・常磐 うみのうまいもの

2025年

**9.30 TUE.**

10:00-16:00

**10.1 WED.**

9:00-15:00

仙台国際センター展示棟

仙台市営地下鉄東西線  
国際センター駅より徒歩1分



### トリガイ養殖における省力化試験

石川県七尾市南ヶ丘19  
能登とり貝生産組合 三ヶ浦部会  
代表者 山本 吉昌 研究担当 坂本 与志一

#### I 研究の目的と内容

##### 1. 研究目的

###### (1) 研究グループの概要

能登とり貝生産組合は、七尾湾内でトリガイ養殖を営む漁業者21名で構成される。このうち、能登島の漁業者が所属している部会が三ヶ浦部会で、現在6名が所属している。本組合では県産ブランド品目として市場評価の高い「能登とり貝」の養殖生産に加え、販路拡大及びブランドイメージの浸透に向け、県内及び首都圏におけるPRの強化、市場ニーズに対応した生産・出荷技術の向上等に取り組んできた。

###### (2) 研究の動機と目的

トリガイ養殖は漁業者が足場の不安定なイカダの上で長時間にわたり作業することが多く、特に、定期的に行う飼育箱の洗浄作業では、空中重量40kgにもなる数百個の容器を中腰姿勢で海中より引き上げるため、漁業者の腰に大きな負担となっており、作業手順の省力化が求められている(写真1)。

そこで本試験では、飼育容器を海面から引き上げる作業の省力化を目的として、イカダ上に設置して使用することができる小型の引き揚げ装置を試作した。



写真1 飼育容器を引き上げる様子  
(手作業による従来の手法)

##### 2. 研究内容及び研究方法

###### (1) 研究項目

飼育容器引き揚げ装置の試作と実証試験

###### (2) 研究方法

トリガイ養殖の省力化装置を試作し、洋上のイカダでその実用性を検証する。



## II 研究結果

### 1. 飼育容器引き揚げ装置の試作

イカダ上で使用可能な飼育容器の引き揚げ装置を試作した。装置の設計図を図1に示す。主な仕様は以下のとおりとした。

- 飼育容器を巻き上げるウインチは、空中重量40kgの飼育容器を海面からイカダまで100cm程度引き上げる能力を有するものとする。
- イカダ上で持ち運び使用するため、全体の重量は20kg以内とし、漁船に積み込み運搬できるものとする。
- 1回の引き揚げ作業に要する時間は1分以内とし、連続的に作業を行うことができるものとする。
- 引き揚げた容器の落下や海中への落下防止のための措置が講じられているものとする。
- 現在使用している育成イカダを大規模に改修することなく設置が可能であるものとする。
- 使用する資材は導入コストが安価なものとす。
- 海上で作業を行うため、防錆、防水対策が行われているものとする。

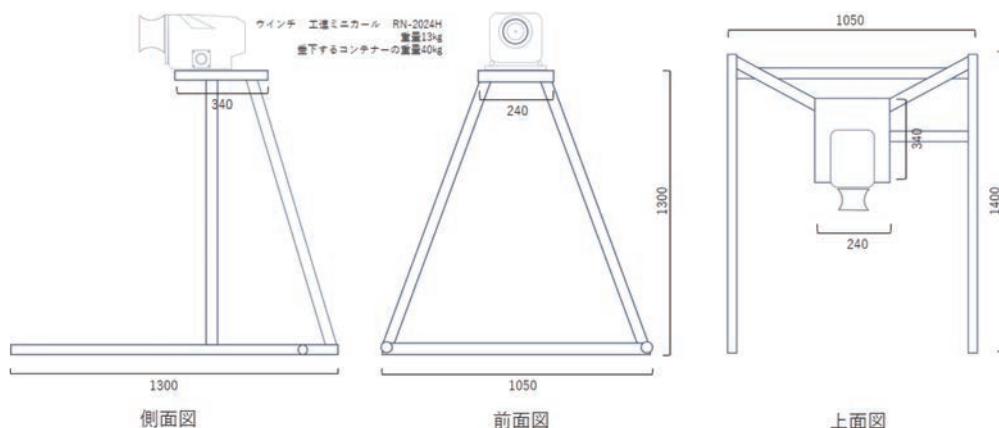


図1 飼育容器引き揚げ装置の設計図

### 2. 試験実施海域と施設の概要

実証試験は、七尾市能登島通町沖に設置されているトリガイ養殖イカダにて実施した(図2)。イカダは10m×10mの正方形で、繊維強化プラスチック製のパイプを組み合わせて作られており、試作装置をこの上に搬送し設置した(写真2)。飼育容器はイカダから約10mの水深層にロープで垂下されている。本試験では、1ヵ所につき飼育容器6箱を1箱ずつ引き揚げた後、試作装置を横にずらし、別の容器6箱を1箱ずつ引き揚げるといった手順の作業を繰り返す。



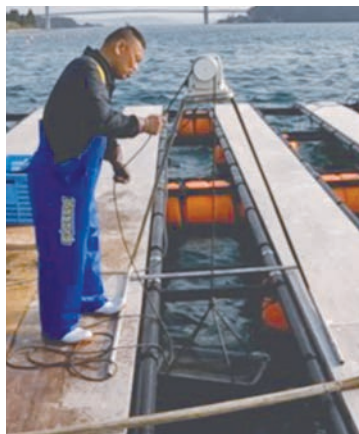
図2 試験実施場所



返した。この結果、手作業による従来の手法と比べて腰への負担が大幅に減り、労力の軽減につながった。また、箱数あたりの作業時間が短くなるとともに、連続的に作業することが可能となった。



(試作装置)



(容器の引き揚げ)



(容器の引き寄せ)

写真2 試作装置を用いた作業風景

### III 考察

本試験により、手作業による従来の手法に比べ中腰の姿勢が避けられ、飼育容器の引き揚げ時の体力的な負担が大幅に軽減されることが確認された。作業者は立った姿勢で垂下ロープを操作するだけであり、本装置の活用により、高齢者や女性、腰痛などで体力的に不安を持つ人でも作業が可能となることが期待される。また、労力が大幅に軽減したことで、作業効率も上がり、作業時間の短縮にもつながると考えられた。

一方、飼育容器の引き揚げ時に装置のフレームの足場が若干浮いてしまう問題が確認された。これについては、転倒を防ぐようなフレーム構造の改良が必要である。また、装置を移動させるときには2人がかりとなるため、省人化の側面からは現在のステンレス製から軽量素材のフレームに変えるなど装置の軽量化が望ましいと考えられた。

今後は、装置を改良しながら実証試験の回数を積み重ね、具体的な作業時間や必要人数の削減効果について従来の手法と比較検討したいと考えている。

## 令和6年度 水産資源保護啓発研究事業(巡回教室)

## ブリ(ハマチ)の資源動向と生態について

島根県東部農林水産振興センター水産課

開催日時 令和6年9月7日(土) 10:00～

開催場所 マリンゲートしまね

講師氏名 倉島 陽 氏

国立研究開発法人水産研究・教育機構 浮魚第3グループ 研究員

## 講演要旨

## ○生態

未成魚は大きな回遊を行なわない一方、成魚は産卵時に南北回遊を行う。日本海では温暖レジャーで能登半島以北でも越冬する。

未成魚は加入した海域から大きな回遊を行わないことから、生育海域によって成長が異なる可能性がある。1月加齢で1月時点の太平洋千葉以西と日本海および太平洋北部での年齢成長関係を示した表を見ると4歳時には同程度に成長するが、2～3歳で成長に若干の違いが見られることがわかる。

産卵期は冬から初夏で、1月～7月にかけて東シナ海陸棚縁辺の南部で発生する。そのうち、2月から3月に発生するものは太平洋側へ輸送され、それ以降、産卵場が徐々に北上し、4～5月以降に発生するものは日本海側へ輸送されるものが多い可能性がある。成熟は2歳で50%、3歳以上で100%と仮定している。稚魚(モジャコ)は各地への輸送過程で、流れ藻に蛸集し、養殖用種苗として主に東シナ海～太平洋南部で採捕されている。

## ○資源動向

ブリ類の大海区別の漁獲量の表では、海区に加えて韓国の漁獲量も集計している。韓国の漁獲統計でも日本と同様にブリ類として集計されている。2022年の漁獲量は日本で9.3万トン、韓国で2.1万トンとなっている。海区別でみると東シナ海区・日本海西区では減少傾向で、北海道区では近年増加傾向が続いている。

ブリ類の資源評価結果について見ると、資源尾数は1994～2008年は徐々に増加しつつもほぼ横ばいが続き、2009年以降に増加し、2014～2020年まで高い水準を維持していた。しかし、2021年から減少傾向に転じ、2022年は2009年以降最低の1.3億尾程度に減少している。

資源重量については、1994～2017年は2017年を最高値の36.8万トンとして増加傾向だったが、2018年に減少し、以降は31.9～33.0万トンで推移している。2022年は32.6万トンだった。2022年は2019年加入が良かった影響で、3歳以上の資源が多い状況であるが、一方で2021年の3歳以上の魚が少なかった影響もあり、0歳(後期)が少ない状況となっている。

再生産関係については、2022年は親魚量のわりに加入が少なかったという結果となった。

神戸プロットについては、現在示している管理基準値案に昨年と同じ値を使用している。結果としては、2022年データに修正があった場合でも資源の状態の解釈はほとんど変わらないのが現状である。

#### ○島根県における漁獲の動向

島根県でのブリの漁獲はまき網漁業によるものが主体であり、次いで定置網漁業が多い。2023年の漁獲量は6,053トンであり、そのうち釣・延縄漁業によるものは190トンであった。

まき網漁業による漁獲を除いた漁獲量は1994～2020年は2,000前後を推移しているが、2019年以降減少傾向にある。なお、2023年は1,653トンであった。

月別の来遊状況をみると、0歳（後期）は7～12月に2歳および3歳以上は1～7月に来遊している。このうち4～6月が島根県周辺での産卵期となっている。また、近年では10月～12月に2歳の来遊の増加や、3歳以上の1～3月の来遊の増加も見られる。

今後の島根県のブリ資源については、東シナ海から太平洋側に回遊する個体が減少した場合、その分が日本海側に回遊してくるため増加する可能性もある。

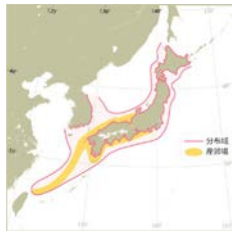
#### 受講者数

|                       |    |     |
|-----------------------|----|-----|
| 出雲地区延縄一本釣漁業組合連合会      | 会員 | 70名 |
| 漁業協同組合 J F しまね        | 職員 | 4名  |
| 島根県東部農林水産振興センター水産部水産課 | 職員 | 6名  |
| 島根県隠岐農林水産局            | 職員 | 2名  |
| 合 計                   |    | 82名 |





## ブリ（ハマチ）の資源動向と生態について



国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所水産資源研究センター  
倉島 陽

2024年9月7日付 出雲地区延縄一本釣漁業組合連合会 技術交流研修会

### 講演内容

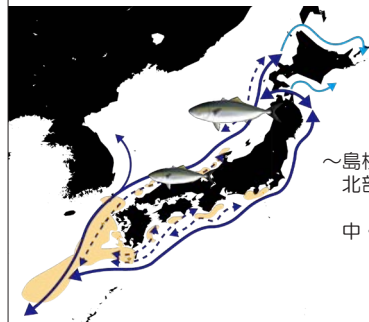
- 生態  
生物情報の概略を紹介
- 資源動向  
2022年度資源評価結果の紹介
- 島根県における漁獲の動向

### 講演内容

- 生態  
生物情報の概略を紹介
- 資源動向  
2022年度資源評価結果の紹介
- 島根県における漁獲の動向

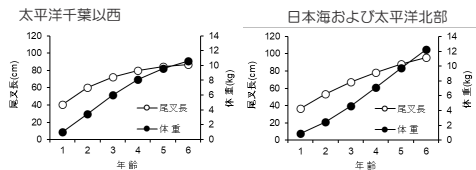
### 生態

**分布・回遊** 未成魚は大きな回遊を行わない  
成魚は産卵時に南北回遊



### 生態

**年齢・成長** 未成魚は大きな回遊を行わないことから、生育海域によって成長が異なる可能性がある



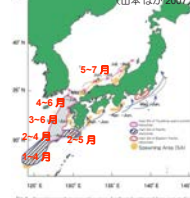
1月年齢起算で1月時点の年齢と成長の関係

### 産卵期・成熟・稚魚期

**産卵期** 冬から初夏（1～7月）

東シナ海陸棚縁辺部が主産卵場  
2～3月：太平洋側へ輸送  
4～5月以降：日本海側へ輸送が多いと考えられている

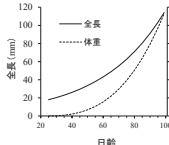
産卵場と産卵時期の関係（山本ほか2007）



**成熟**

0～1歳で0%、2歳で50%、3歳以上で100%と仮定

稚魚の日齢-成長関係



**稚魚期**

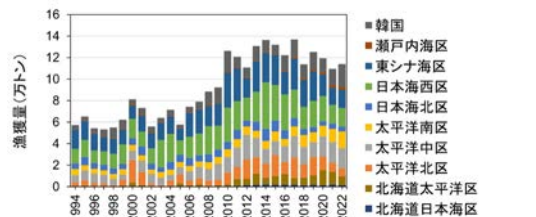
- 稚魚（モジャコ）は各地への輸送過程で、流れ藻に匨集
- 養殖用種苗として主に東シナ海～太平洋南部で採捕されている

長崎県五島列島周辺海域での日齢と全長の関係（Sakakura and Tsukamoto 1997）  
鹿児島県～三重県の太平洋南部での成長と体重の関係（農林水産技術会議事務局 1967）

### 講演内容

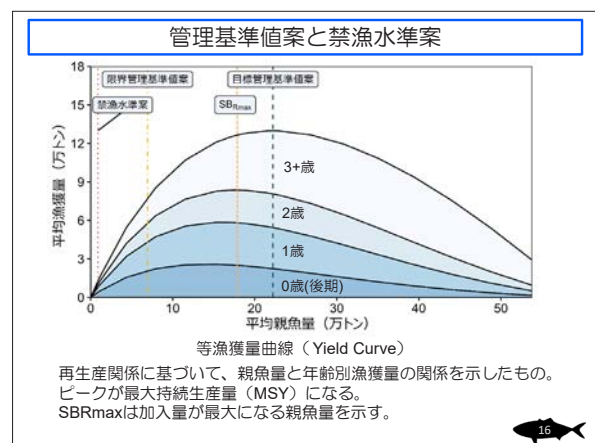
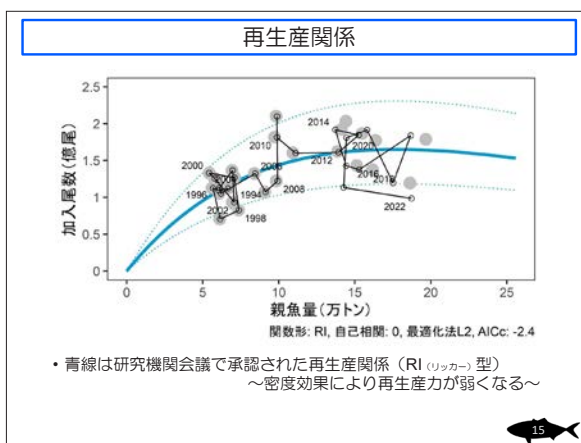
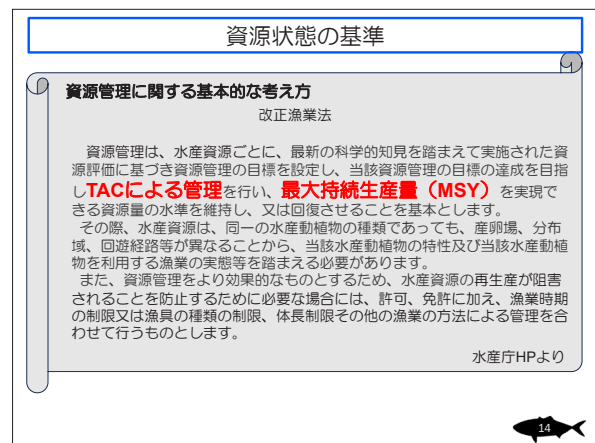
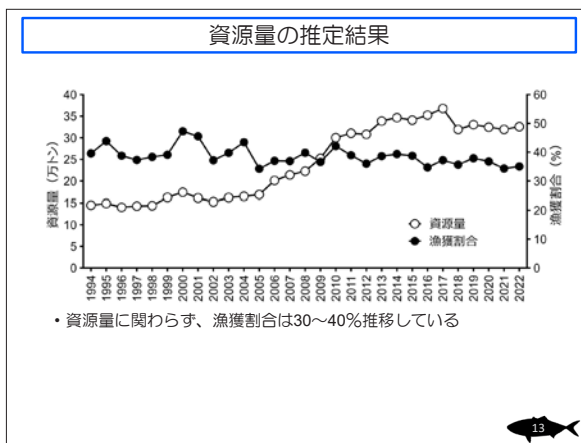
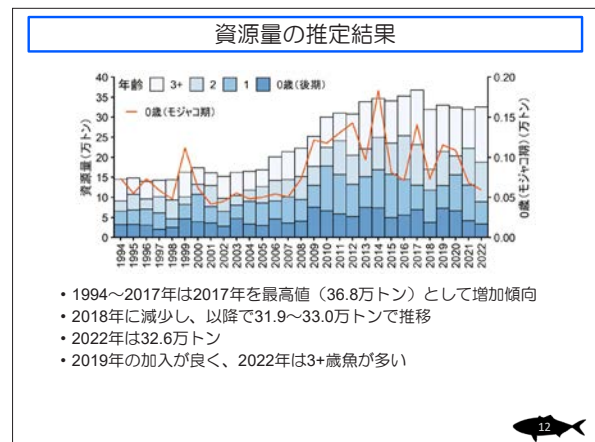
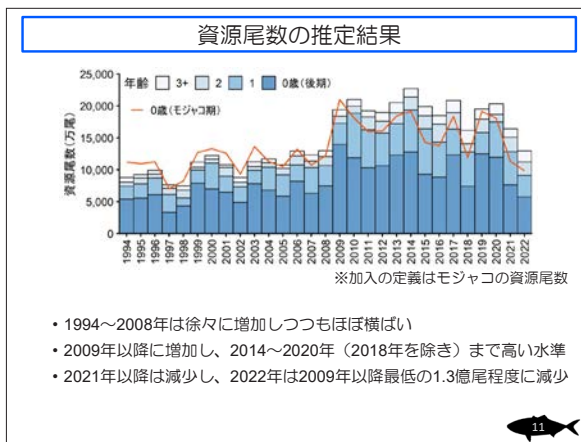
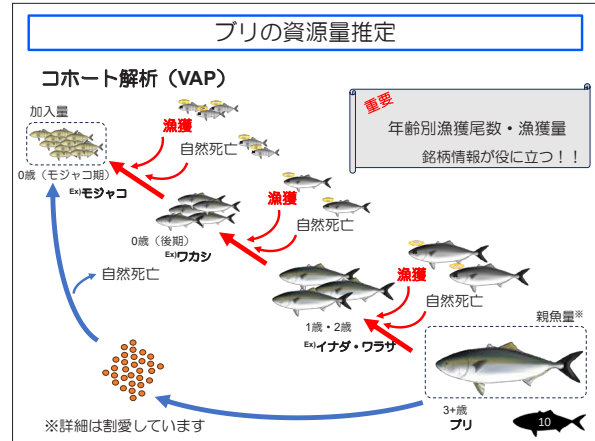
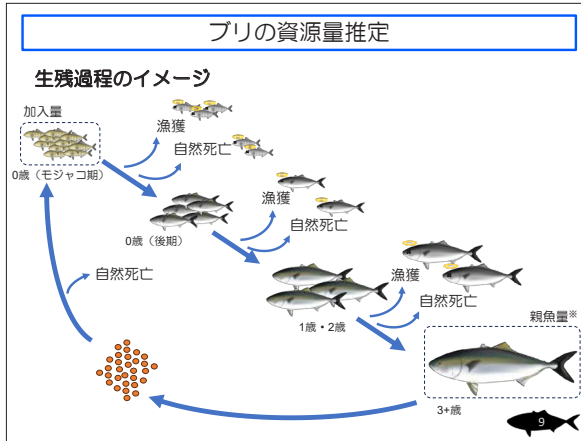
- 生態  
生物情報の概略を紹介
- 資源動向  
2022年度資源評価結果の紹介
- 島根県における漁獲の動向

### ブリ類の大海区別漁獲量

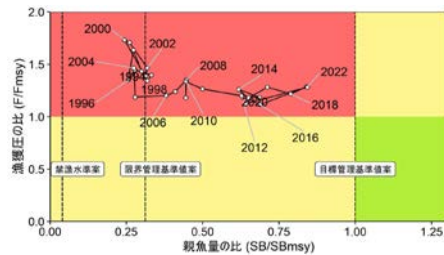


※日本・韓国の漁獲量はブリ、ヒラマサ、カンパチ類を合算した「ブリ類」

日本 2021年：9.4万トン 2022年：9.3万トン（暫定値）  
韓国 2021年：1.5万トン 2022年：2.1万トン



神戸プロット (MSYを目標にした場合)

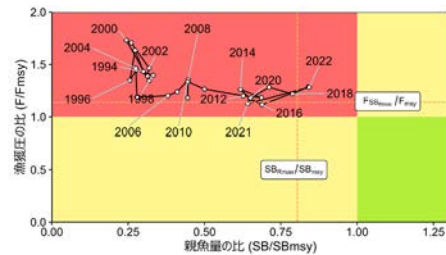


漁獲圧と親魚量の関係から目標との関係を示すもの。

- MSYを目標にした場合：  
1994年以降の一貫してレッドゾーン  
※MSY基準に達していないことを意味し、  
必ずしも資源の減少を意味するものではない



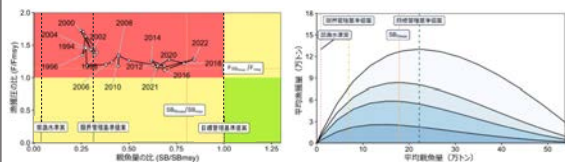
神戸プロット (加入量が最大となる親魚量を目標)



- 加入量が最大となる親魚量を目標とした場合：  
2018年および2022年は目標を上回るもの、  
漁獲圧は目標より高い状態である



管理基準値案と禁漁水準案等



- MSY水準における親魚量 (SB<sub>MSY</sub> : 22.2万トン)
- 加入量が最大になる親魚量 (SB<sub>Rmax</sub> : 17.9万トン) → SH会合で合意
- 限界管理基準値 (SB<sub>limit</sub> = SB<sub>0.6msy</sub> : 6.9万トン)
- 禁漁水準 (SB<sub>ban</sub> = SB<sub>0.1msy</sub> : 0.9万トン)

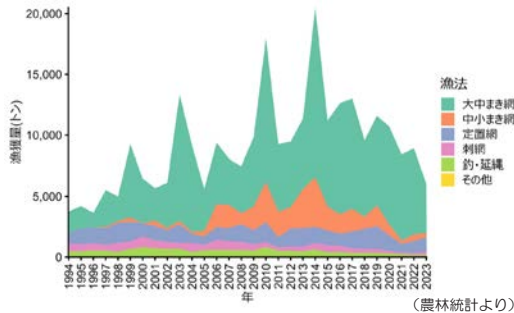


講演内容

- 生態  
生物情報の概略を紹介
- 資源動向  
2022年度資源評価結果の紹介
- 島根県における漁獲の動向



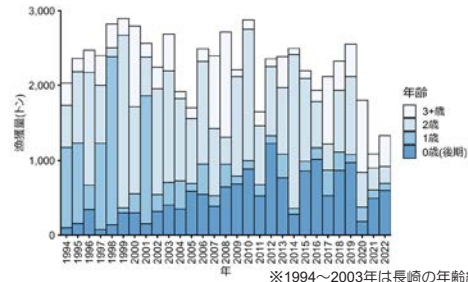
島根県における漁法別漁獲量



- まき網による漁獲が主体、次いで定置網による漁獲が多い
- 2023年は6,053トン、釣・延縄は190トンであった。



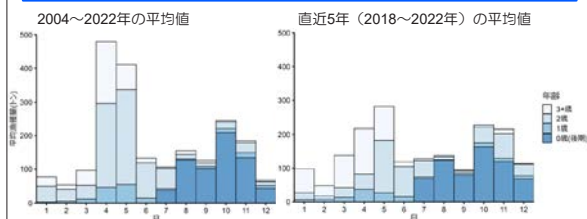
島根県における漁獲量 (まき網を除く)



- 1994～2020年は2,000トン前後を推移
- 2019年以降は減少傾向
- なお、2023年は1,653トンである (未図示)



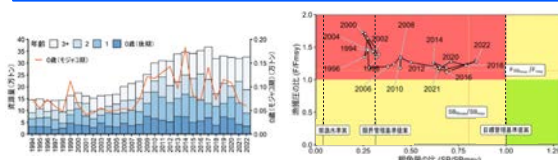
島根県における月別の来遊状況



- 0歳 (後期) は7～12月
- 2歳および3+歳の来遊は1～7月 (4～6月が主体)
- 近年では10月～12月に2歳の来遊が増加
- 3+歳の1～3月の来遊も増えている



最後に



資源評価結果をもとに資源管理 (TAC管理) に向けて進行  
全国の35都道府県の水産試験場等の参画機関で実施

※資源評価は完璧ではない  
(すべてを把握することは不可能)  
Best-Availableで実施

➡ 資源評価精度向上に取り組んでおります！

精度向上には皆様のご協力が不可欠です。  
引き続き、ご協力の程よろしくお願い致します。





# 理 事 会 及 び 総 会 の 概 要

## 令和7年度第1回理事会

日時：令和7年5月20日（火） 14時00分～15時00分  
 場所：東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル5階会議室  
 議事：第1号議案 第13回定時総会に付議すべき事項について  
 報告：令和7年度事業計画及び収支予算の件

## 第13回定時総会

日時：令和7年6月17日（火） 15時00分～15時50分  
 場所：東京都中央区八丁堀1丁目9番8号 八重洲通ハタビル5階  
 アットビジネスセンター東京駅八重洲通り  
 議事：第1号議案 令和6年度事業報告及び決算報告の件  
 第2号議案 役員選任の件  
 第3号議案 令和7年度会費賦課額及び徴収方法決定の件  
 第4号議案 令和7年度役員報酬決定の件  
 報告：令和7年度事業計画及び収支予算の件

## 令和7年度第2回理事会

日時：令和7年6月17日（火） 15時50分～16時00分  
 場所：東京都中央区八丁堀1丁目9番8号 八重洲通ハタビル5階  
 アットビジネスセンター東京駅八重洲通り  
 議事：第1号議案 会長、副会長及び専務理事の選定に関する件

2025年6月17日  
 公益社団法人日本水産資源保護協会 役員名簿

| 役 職 名   | 氏 名     |
|---------|---------|
| 会 長     | 高 橋 正 征 |
| 副 会 長   | 遠 藤 久   |
| 専 務 理 事 | 遠 藤 進   |
| 理 事     | 三 浦 秀 樹 |
| 理 事     | 松 本 冬 樹 |
| 理 事     | 坂 本 一 男 |
| 理 事     | 中 尾 直   |
| 理 事     | 原 知 比 古 |
| 監 事     | 渥 美 雅 也 |
| 監 事     | 高 梨 義 宏 |

※任期 2027年6月定時総会の終結まで

# 事業の紹介

## 令和7年度復興水産加工業等販路回復促進指導事業 消費地商談会実施予定

| 消費地商談会名                    | 開催期間   会場                            | 募集数 | 担当団体           |
|----------------------------|--------------------------------------|-----|----------------|
| JFEX FOOD Summer           | 2025年07月08日(火)-11日(金) 東京ビッグサイト       | 18  | 日本水産資源保護協会     |
| 中部スーパーマーケット&ドラッグストアビジネスフェア | 2025年07月15日(火)-17日(木) ポートメッセなごや      | 18  | 全国水産加工業協同組合連合会 |
| ジャパン・インターナショナル・シーフードショー    | 2025年08月19日(火)-22日(金) 東京ビッグサイト       | 28  | 全国水産加工業協同組合連合会 |
| フードストアソリューションズフェア          | 2025年09月03日(水)-05日(金) インテックス大阪       | 16  | 日本水産資源保護協会     |
| FOOD STYLE Japan東京         | 2025年09月24日(水)-26日(金) 東京ビッグサイト       | 16  | 日本水産資源保護協会     |
| FOOD STYLE Japan中部         | 2025年10月28日(火)-30日(金) Aichi Sky Expo | 14  | 全国水産加工業協同組合連合会 |
| FOOD STYLE Japan九州         | 2025年11月18日(火)~20日(木) マリンメッセ福岡       | 16  | 全国水産加工業協同組合連合会 |
| FOOD STYLE Japan関西         | 2026年01月27日(火)-29日(木) インテックス大阪       | 16  | 日本水産資源保護協会     |
| スーパーマーケット・トレードショー          | 2026年02月17日(火)-20日(金) 幕張メッセ          | 34  | 全国水産加工業協同組合連合会 |
| シーフードショー大阪                 | 2026年02月24日(火)-26日(木) ATCホール         | 24  | 日本水産資源保護協会     |

※主催者等の事情により、実施予定が変更されることもございますので、ご了承ください。  
また、募集数は年度初めの予定数で、実際にはさらに多くの事業者の方に参加いただく予定であります。

## 水産加工連携プラン支援事業 アドバイザー派遣について

水産加工・水産流通業を営む事業者・組合の皆様へ

派遣  
無料

### 水産加工流通分野のアドバイザーに相談してみませんか？ 相談内容に応じた専門アドバイザーに 無料相談できます！

水産加工・流通分野の原材料・人手不足・経営体力の不足等の課題の解決に向けて、専門アドバイザーが相談に応じて、水産加工連携プラン支援事業の活用等を助言致します。

#### 主なアドバイザー

大学教授等経験者、専門コンサルタント、県庁等行政経験者、  
水産機器メーカー、水産会社、水産団体、MEL審査員、量販店水産バイヤー等

#### 申込の流れ

運営事務局にアドバイザー派遣を申請

相談内容に応じたアドバイザーとの派遣調整

アドバイザー派遣の実施

#### 相談内容 イメージ

加工技術、機器導入、商品開発、生産性向上・省人化、衛生管理、水産流通、原料調達、  
販路開拓、六次産業化、魚食普及、漁業経営、輸出、企業間マッチング等

詳細は日水資ホームページをご覧ください。

## 私にとっての水産

## 【M・K】JFRCA君の釣り日記

真夜中に向かうところは、千葉県は内房、某海水浴場の端に到着、根魚（ねざかな）メインの五目釣りです。今日も鋸山が迎えてくれています。

根魚とは、ロックフィッシュとも呼ばれ、地中の障害物（消波ブロックや岩・敷石の間隙など）に生息している魚のことであり、カサゴ（ガシラ）・ソイ・メバル・アイナメ・キジハタ（アコウ）などになります。

到着です。まとわりつく湿気、風が少しありますね。早々に仕掛けを作りスタートです。堤防の淵にアオイソメやオキアミ付けた仕掛けを落としてみます。釣れるのはゴンズイばかりですね。強い引きがあって、竿をあげてみるとゴンズイのダブル。明るくなってくるとゴンズイがいなくなるのが、いつもの流れなので、朝まずめまでは、竿一本でゆっくり待っています。

少しずつ明るくなってきました。これからは、いつものように三本出しにします。早速、オキアミの仕掛けにメバル20cm いいサイズです。

綺麗な朝日をゆっくり眺める時間もなく、仕掛けを落とすたびにアタリがくる流れです。朝まずめ効果です。仕掛けは、胴突き仕掛けで2本・3本バリです。ヘチを粘っているとサンバソウとムラソイが同時にヒット、予想のできない強烈な引きがあって、本当に面白いですね。続いてきたのが、ササノハベラ、キュウセン……想像しながら釣り上げるのが、楽しいですね。次は何の魚だろう。納得のサイズのカサゴ、いいね！

少し離れたところへ投げてみると結構な引きが、これは何だろう、まずまずなサイズのハコフグかわいいですね。さらにアナハゼ、口の中、身もきれいな青色です。名前はハゼですが、カサゴの仲間です。足元に仕掛けを落とすことが多いので、長い竿だと釣りづらいと思います。また、滑らないような靴がオススメです。

根魚釣りは、引きが十二分に楽しめる釣りです。アタリがあったときはいつも、いくつになっても何とも言えない、興奮します。手軽に出来る釣りではないかと思います。一度皆さんも試してみたいはかがでしょうか。それではまた……



## 【M・T】子供は魚が好き？嫌い？

先日、出張で秋田を訪れた際、内水面漁連の会長から「今度の日曜日に、史上最大の魚のつかみ取り大会をやる！」と気合の入ったご案内をいただきました。折しも、日本海側が大雨に見舞われ、前日は秋田も土砂降りであったことから心配をしていましたが、会長のMさんからは「さっき、会場を見てきたが、ギリギリできそうだ。」という言葉に続けて、昨年の子供たちの魚を追いかける生き生きとした姿を、満面の笑みで語られていました。現地視察の途中で見ていただいた河川公園内の特設会場は、河川と魚に慣れ親しんでもらいたいという地域の方々の想いのこもった工夫がされた施設であり、当日に向けて清掃が行き届いたものでした。後日、ネットのニュースで、県内外から130名の子供たちが参加して盛大に開催されたことを知り、子供たちの姿が目に見えて、思わず笑みを浮かべてしまいました。

以前、世界の水族館を調べていた時、その定義は様々であるものの、日本は世界で一番多くの水族館があるというものを見たことがありましたし、たしか、各都道府県に1つはあったかと記憶しています。さすがは四方を海で囲まれ、豊富な河川湖沼を持つ我が国だと感じたものでした。

こうした環境に加え、テレビやSNSなど釣りに関する情報も多数あり、「さかなクン」のように魚のことに詳しい子供たちも多いことことから、生物としての魚嫌いはいないと思います。

また、食べる方でも、以前の水産白書のコラムに「魚離れ≠魚嫌い」みたいなものが有ったと思い、改めて確認したところ、大日本水産会が行った水産物消費嗜好動向調査の結果でも魚料理の好意度は、9割を超すというものでした。コラムには、魚介類を好んで購入される方の理由は、「健康に配慮したから」や「魚介類の方が肉類よりおいしいから」というものでした。一方で、「魚介類は価格が高い」と「調理が面倒」、「調理法を知らない」といった購入に否定的な意見も見られたようでした。

今更ながら、魚の栄養素をググってみると、良質なたんぱく質、EPA・DHAなどの脂肪酸、ビタミンD、ミネラルなどが、パランスよく消化吸収に良い形で含まれているとありました。生活習慣病の予防に加え、成長時に必要な脳の働きや骨の成長にも有効であること等を再認識し、改めて水産に関わらせていただいていることを誇らしく感じました。

子供の食の好みは、親の食生活の影響が大きいといわれています。小さい子供は、味覚の発達途中ではありますが、甘味と塩味を好み、苦みや渋みは好まない傾向があるそうです。

煮魚や味噌漬、刺身に加え上手く加工し、焼き魚の焦がしや内臓の苦みを上手く避けてあげれば、もっと魚を好む子供が増えるのでは、などということ、猛暑の中、一人考えています。



(公社) 日本水産資源保護協会は以下の規格の認証機関として認められています。

MELJapan : 『マリン・エコラベル・ジャパン』 (Marine Eco-Label Japan)



FAO (国際連合食糧農業機関: Food and Agriculture Organization of the United Nations) の持続可能な漁業の認証のガイドラインに基づき、ISO 認証の仕組みに沿った認証制度です。

\*スキームオーナー 「一般社団法人 マリン・エコラベル・ジャパン協議会」

\*規格とその認証の仕組みを所有し、運営・維持する主体

AEL : 『養殖エコラベル』 (Aquaculture Eco-Label)



持続可能な養殖業の発展に資するため、FAO の養殖認証に関する技術的ガイドラインに基づき、ISO 認証の仕組みに沿った認証制度です。

スキームオーナー 「一般社団法人 日本食育者協会」



### ● 受託検査のご案内 ●

公益社団法人日本水産資源保護協会では、水産分野のさまざまな検査を行っています。

当協会では、以下の検査を受託しています。検査の申し込み・詳細は下記までお問い合わせ下さい。

#### ● 錦鯉関連検査

1. コイヘルペスウイルス (KHV) PCR 検査
2. コイ科魚類特定疾病検査
3. 中国向け輸出錦鯉検査

#### ● 種苗検査

1. ヒラメのクドア (*Kudoa septempunctata*) 検査

#### ● 輸出前検査

1. 中華人民共和国向け輸出活水産物の目視検査
2. 台湾向け輸出水産動物の魚病検査
3. 大韓民国向け輸出水産動物等の魚病検査
4. カナダ向け輸出餌料用天然マサバ (内臓付き) の目視検査
5. ロシア向け輸出水産食品魚病検査 (活魚介類検査)
6. ベトナム向け輸出活水産動物の検査

#### ● 上記以外の臨時検査 (令和元年から令和 6 年 12 月まで)

魚類: カンパチ、チョウザメ類、ニジマス、ナマズ、フナ、キンギョなど

貝類: アワビ類など

#### ● 検査方法

農林水産省「特定疾病等対策ガイドライン」、国際獣疫事務局 (WOAH) 監修の疾病診断マニュアルなどに準拠した方法を用います。検査結果は日本語表記あるいは日英文併記の結果報告書を発行します。

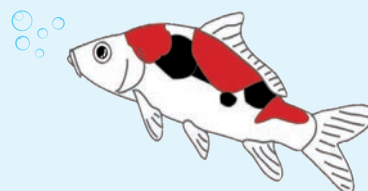
#### ● 受託検査に関するお問い合わせ・資料請求

公益社団法人 日本水産資源保護協会 受託検査担当

TEL : 03-6280-5033 FAX : 03-6280-5034

E-mail : kensa@fish-jfrca.jp

ホームページ : <http://www.fish-jfrca.jp/>



<編集後記> 本号の追込みに入った7月30日の朝、カムチャツカ半島付近でM8.8の地震が発生しました。北海道全域、本州・四国・九州の太平洋岸には津波警報・注意報が出され、岩手県の久慈港では最大1.3mの津波が観測されたそうです。東北を始め各地では、交通網にも影響が出るとともに、多くの方々が高台へと非難される姿がニュースで流れていました。

この津波で、岩手県や宮城県、三重県などでは、カキの養殖筏が流され大きな被害がでたことも報道されていました。水温上昇による生育不良などカキの養殖業者の方々には、ただでさえ大変な状況下で、マガキの生産量に出る影響がどの程度になるのかが心配になります。何より生産者の方々にとって、できるだけ影響が少ないことをただただ祈るばかりです。

公益社団法人日本水産資源保護協会 季報担当

# 水産防疫対策委託事業

## 令和7年度養殖衛生管理技術者養成研修（本科基礎コース）が開催されました

今年度の養殖衛生管理技術者養成研修（本科基礎コース）が、令和7年6月23日から7月4日まで弊社会議室で開催されました。

国内防疫を担う都道府県職員や漁業協同組合の職員等47名（対面8名、オンライン39名）に対し、養殖水産動物の診療に係る基礎的な講義を座学で実施しました。



### 令和7年度養殖衛生管理技術者養成本科基礎コース研修 科目及び講師

| 科 目        | 氏 名    | 所 属                      |
|------------|--------|--------------------------|
| 魚病学総論      | 佐野 元彦  | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科       |
| 細菌病        | 吉田 照豊  | 宮崎大学農学部                  |
|            | 泉 庄太郎  | 東海大学海洋学部                 |
| ウイルス病      | 佐野 元彦  | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科       |
|            | 笠井 久会  | 北海道大学大学院水産科学研究院          |
| 寄生虫病       | 白樫 正   | 近畿大学水産研究所                |
|            | 伊藤 直樹  | 東京大学大学院農学生命科学研究科         |
|            | 横山 博   | 岡山理科大学獣医学部獣医学科           |
| 真菌病        | 倉田 修   | 日本獣医生命科学大学               |
| 養殖漁場環境論    | 清水 園子  | 愛媛大学南予水産研究センター           |
| 免疫学        | 中西 照幸  | 株式会社ゴト一養殖研究所             |
| 食品衛生法      | 鶴身 和彦  | 公益社団法人日本食品衛生協会           |
|            | 佐々木 慎治 | 厚生労働省健康・生活衛生局食品監視安全課     |
| 薬機法        | 森口 優佳  | 農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課水産安全室 |
| 持続的養殖生産確保法 | 佐藤 文夫  | 農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課水産安全室 |
| 水産動物学      | 間野 伸宏  | 日本大学生物資源科学部海洋生物学科        |

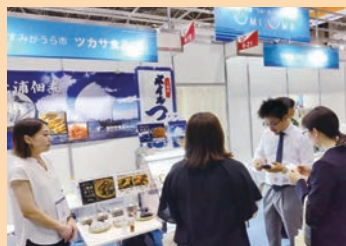
（敬称略）

## JFEX FOOD Summer 国際 食品・飲料 商談Week

「JFEX FOOD Summer」に復興水産加工業販路回復促進センターとして、出展しました

令和7年度復興水産加工業等販路回復促進事業として、東日本大震災により失われた販路回復等を目的に、令和7年7月9日～11日に東京ビッグサイトで開催された「JFEX FOOD Summer 国際 食品・飲料 商談 Week」に復興ブースを設け、水産加工業者 18 社が出展しました。

開催前日に出展者の皆様には、水産物の安全性、消費者およびバイヤーと向き合う上で必要不可欠な自社（商品）の再認識をテーマとした講習会を受講していただき、その学んだ内容を「展示商談会」において、実践していただきました。



復興水産加工業販路回復促進センターでは、  
東日本大震災の被災地における水産加工業等の復興を支援し、  
販路回復を望む水産加工業等の皆様をサポートいたします



※令和6年9月17日(火)より、新事務所に移転いたしました。

令和7年8月15日発行

発行 — 公益社団法人 日本水産資源保護協会

●連絡先

〒104-0042

東京都中央区入船3-10-9

新富町ビル5階

TEL 03(6280)5033

FAX 03(6280)5034

【振替口座】00120-8-57297

企画・編集 — 公益社団法人 日本水産資源保護協会

制作・印刷 — 株式会社 生物研究社